

【根室地域（落石地区）】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●地域観光資源を生かしたエコツーリズムの推進（継続事業）

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料	
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的なエコ・ツーリズムネットワークの形成 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落石ネイチャークルーズ事業 ・落石岬フットパス事業 ・ユルリ・モユルリ島周辺海洋牧場整備 	<p>取組場所</p> 	<p>【取組の様子】</p> <p style="text-align: center;">落石ネイチャークルーズ事業</p> 
現状における取組実施の背景	<p>当地域は、落石岬などの優れた景観資源、自然環境資源、水産物などの環境コンテンツの集積に恵まれながらも、立地の孤立性やまちおこし推進母体の不在等の理由から、漁業以外に主だった関連産業が形成されていない現状を踏まえ、これらの課題解決を図るために、優れた観光資源を活用したエコツーリズムの推進を図り、関連産業の創出や就業所得機会の確保、多くの来訪者との交流に恵まれた豊かで快適な定住環境の形成を図る必要がある。</p>		
取組により期待する効果	<p>関連産業の形成や優れた資源・取り組み間のネットワーク形成、自主・自立の地域おこし母体組織の形成による所得機会の向上</p>		
(2) 取組内容・実施体制（Do）			
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>(1) 落石ネイチャークルーズ事業</p> <p>【取組内容】</p> <p>地域観光資源を活かした魅力発信のほか、休漁期における漁業者所得の向上を目的として、漁業者（現在7名）の自営船をクルーズ船として活用し、漁業者自らがガイドとなって運航を行い、乗船料により一定の収益を上げている。</p> <p>また、地域の特色を熟知している地域住民（2名）を受付として雇用し、乗船客の呼び込みを図るなど、地元雇用を核とした域内循環の構築を目指している。</p> <p>なお、ツアー客として、外国人観光客も年々増加しており、インバウンド対策として64か国対応の翻訳機を整備し（令和元年）、外国人観光客の受入にも対応している。</p> <p>【実施体制】</p> <p>主 体：落石ネイチャークルーズ協議会（構成員：漁業者、漁協職員、市観光協会、行政（市）ほか）</p> <p>時 期：6月～9月、1月～2月</p> <p>《参考》</p> <p>落石ネイチャークルーズ事業乗船人数の推移</p> <p>R1 868名⇒R2 0名（コロナにより休業）⇒R3 367名⇒R4 827名⇒R5（見込み）950名</p> <p>(2) 落石フットパス事業</p> <p>【取組内容】</p> <p>一般客を対象とした大人数での浜松フットパス大会については、熊の出没により安全面を考慮し中止としたが、外部から講師を招聘し、新たな観光資源の開発を目的とした、少人数での浜松フットパス大会を実施し、新たな地域資源の発掘や魅力の発見及び発信を行った。</p> <p>また、ガイドの研修として、外部から講師を招聘し、現地での講習会を行うなど人材育成にも努めた。</p>	<p style="text-align: center;">フットパスの様子</p> 	

	<p>【実施体制】</p> <p>主 体：根室・落石地区と幻の島ユルリ島を考える会（落石マリナビジョン協議会構成員）</p> <p>日 程：令和5年6月25日</p> <p>参加者：16名（うち、ガイド1名）</p> <p>(3) ユルリ・モユルリ島周辺海洋牧場整備</p> <p>【取組内容】</p> <p>平成30年にユルリ島へ放牧された3頭の馬の生育状況の定期観察（年に2回）を行ったところ順調に成長していることが確認された。</p> <p>【実施主体】</p> <p>主体：根室・落石地区と幻の島ユルリ島を考える会（落石マリナビジョン協議会構成員）</p>	
(3) 効果項目に対する評価 (Check)		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・落石ネイチャークルーズ事業を通して、コロナ禍において減少傾向であった来訪者の回復がされてきており、多くの来訪者との交流機会の増加及び就業所得機会の向上に繋がった。 さらには、漁業をリタイアした人の再雇用の場として、有効活用がされている。 ・落石フットパス事業を通して、新しいガイドの研修も含め、人材育成に繋がった。 	
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・外国乗船客に対してのコミュニケーション力不足（「～の方角に～が見える」など、うまく情報を伝達できない。） ・乗船客は増加傾向にあるものの、根室市内に宿泊先が少ないことで、ほとんどが通過型観光となっている。 ・落石フットパス事業では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一定期間休業したことで、ガイドが減少し、対応可能なガイド不足に陥っている。 	
(4) 取組の改善措置 (Action)		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型観光メニューは、地域の魅力を発信する重要なツールであることから、体験メニューの拡充やネイチャークルーズやフットパスなど既存事業を融合させた企画・立案を行い、旅行代理店等への売り込み強化を図り、新規顧客獲得を目指し、交流人口の拡大さらには収益性の向上による、地域経済の活性化に結びつける必要がある。 ・漁民泊の試験実施や地域宿泊施設と連携し、野鳥観光やフットパスなどの宿泊パック（ツアー）等を企画し、滞在型観光を推進していく。 	
取組の実施に必要なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドの育成及び人材確保 ・漁民泊等の受入施設の確保 ・宿泊パックの導入を含めた滞在型観光受入体制の構築 	

●落石産地域ブランドの確立に向けた取り組み（継続事業）

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域MVにおける取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の安全・安心要請に対応した衛生管理体制の強化 ・交流を契機とした戦略的流通活性化 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚食普及活動 ・販売促進活動 ・女性起業家グループ「海鮮工房 霧娘」による加工品の提供 	<p>取組場所</p>  <p>【取組の様子】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">落石産水産物を用いた料理教室・漬物教室</p>
現状における取組実施の背景	<p>当地区は、多様な水産物が漁獲される地域であるが、近年の魚食離れによる魚価の低迷が課題となっている。</p> <p>こうした現状を踏まえ、落石地区で生産される水産品及び水産加工品の高付加価値化や価格安定化を図るため、消費者ニーズに対応した高品質な水産物の供給に加え、積極的な販売促進活動を実施し、「落石産ブランド」を確立するとともに、地産地消の拡大を図るため、漁協女性部による魚食普及活動や女性起業家グループ「海鮮工房 霧娘」による加工品の開発を推進する。</p>	<p>「料理教室（タラの竜田揚げ）」</p>  
取組により期待する効果	<p>地産地消の確立、付加価値向上による地域水産物のブランド力向上</p>	
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>(1) 魚食普及活動</p> <p>【取組内容】</p> <p>落石産水産物の魚食普及による消費拡大を図るため、ねむろ水産物普及推進協議会（事務局：市）と連携し、漁協女性部を講師とした「浜の母ちゃん直伝！根室おさかな料理教室」及び「浜の母ちゃん直伝！根室おさかな漬物教室」を開催した。</p> <p>【実施体制】</p> <p>①浜の母ちゃん直伝！根室おさかな料理教室</p> <p>主 体：ねむろ水産物普及推進協議会（事務局：市）</p> <p>講 師：市内4漁業協同組合女性部</p> <p>日 程：令和5年1月20日</p> <p>参加者：13名</p> <p>②浜の母ちゃん直伝！根室おさかな漬物教室</p> <p>主 体：ねむろ水産物普及推進協議会（事務局：市）</p> <p>講 師：落石漁業協同組合女性部</p> <p>日 程：令和5年11月27日</p> <p>参加者：15名</p> <p>(2) 販売促進活動</p> <p>【取組内容】</p> <p>令和4年5月より、落石漁業協同組合内部に商品開発専門の部署として、製品開発・販売部を新たに設置し、ねむろ水産物普及推進協議会主催の「まるごと根室直送市」に参加し、落石産水産物の認知度向上及び消費拡大によるブランド力向上を図った。</p>	<p>「漬物教室（こまいの切漬け）」</p>   <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">落石駅にて提供されたタコ飯弁当</p>  

	<p>【実施体制】</p> <p>主 体：ねむろ水産物普及推進協議会</p> <p>日 程：令和5年10月27日・28日・29日 3日間</p> <p>場 所：北海道庁赤れんが庁舎前庭（札幌市）</p> <p>派遣者：落石漁業協同組合職員2名</p> <p>来場者：約8,000名</p> <p>(3) 女性起業家グループ「海鮮工房 霧娘」による加工品の提供</p> <p>【取組内容】</p> <p>女性起業家グループ「海鮮工房 霧娘」が落石前浜海域において漁獲された新鮮なタコを加工原料として、令和元年に「タコ飯の素（レトルト）」を開発。</p> <p>令和5年においても、落石駅に立ち寄った観光客等に対し、開発した「タコ飯の素」を使用したタコ飯弁当を販売した。</p> <p>【実施体制】</p> <p>主 体：女性起業家グループ「海鮮工房 霧娘」</p> <p>販売数：110食</p>	<p style="text-align: center;">まるごと根室直送市</p> 
(3) 効果項目に対する評価 (Check)		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・落石産水産物を用いた料理教室・漬物教室を実施により、受講者に対し捌き方や調理方法などの活用方法や味覚など落石産水産物の魅力を直接伝えることで、落石産水産物の普及・宣伝に繋がり、消費拡大や落石産ブランドPRによる知名度向上が図られた。 ・市外での催事への参加により、落石産水産物のPRに繋がったほか、直接対面販売により消費者ニーズを的確に捉えることで、ニーズに応じた商品開発を行った結果として、ふるさと納税の返礼品及び花咲ガニやほっき貝などの落石産水産物の注文販売では、約1,300万円の売上となり、落石産水産物の消費拡大に寄与できた。 ・「タコ飯の素」を使用した「タコ飯弁当」の販売により、落石地区に訪れた観光客に対し落石産水産物の魅力を発信することができ、知名度の向上が図られたことから消費拡大が若干増え、今後の販路拡大及びブランド力向上が期待される結果となった。 	
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区においてもブランド化へ向けた取組は進められているため、より一層の落石産ブランドとしての優位性を高めるための商品展開が必要である。 	
(4) 取組の改善措置 (Action)		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外で販売促進活動への積極的な参加が必要である。 ・落石産水産物の更なる認知度向上及び消費拡大に向け、情報発信ツールを活用した落石産水産物の情報発信を行う必要がある。 ・落石産水産物の消費拡大に向け、加工・販売体制を整備する必要がある。 	
取組の実施に必要なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信ツールの構築 ・販売促進活動に向けた人員の確保 	

●つくり育てる漁業の振興に向けた取り組み（継続事業）

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくり育てる漁業の推進による地域漁業の足腰の強化 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新技術活用による水産資源増大対策（ヤナギダコ、昆布） ・地元漁業者による資源増大対策（トラウトサーモン） ・漁協青年部による資源増大対策（ウニ） 	<p>取組場所</p> 
現状における取組実施の背景	近年、国際情勢の悪化や水産資源の減少により、漁家の収入安定化に向けた対策が必要となっていることから、「つくり育てる漁業の振興、足腰の強い落石沿岸漁業の活性化」を目的として、落石地区主要魚種の畜養殖・増養殖の活性化による漁家の収入安定を図る。	<p>【取組の様子】</p> <p>ヤナギダコ放流試験の様子</p> 
取組により期待する効果	沿岸漁家経営強化、天然資源依存型漁業からの転換、つくり育てる漁業の推進	
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>(1) 新技術活用による水産資源増大対策</p> <p>【取組内容】</p> <p>①根室市と東海大学海洋学部との相互協力協定により、共同開発されたヤナギダコの産卵・ふ化技術を活用し、市場内において陸上水槽産卵技術を活用した稚ダコを落石漁港前浜設置されたカルベース試験礁に放流した。</p> <p>②北海道大学の協力を受け、令和2年11月から、落石前浜海域に昆布養殖ロープ8本（4か所×2本）を設置し、ナガコンブの養殖試験を実施。令和5年には、採取したナガコンブを出荷した。</p> <p>【実施体制】</p> <p>①主 体：東海大学海洋学部、落石漁業協同組合、行政（市） 放流日：令和5年6月2日</p> <p>②主 体：北海道大学、落石漁業協同組合</p> <p>(2) 地元漁業者による資源増大対策</p> <p>【取組内容】</p> <p>秋サケなどの水揚げが減少傾向にある中、落石漁協が定置漁業者から要望を受けたことを契機として、幾度とその対策について協議を行ったのち、令和4年に本州の養殖地を視察するなどの準備を経て、令和5年5月、落石漁港内の静穏域を利用したトラウトサーモンの海面養殖試験を実施した。</p> <p>養殖試験にあたっては、落石漁港内に設置した円形の生簀（直径14m、深さ5m）に平均500g前後の種苗を約4,000尾投入し、漁業者が給餌をしながら、出荷サイズとなる約2.5kgアップへの成長を目指し、事業化の可能性を探った。</p> <p>【実施体制】</p> <p>主 体：北海道ニチモウ㈱、落石サケ養殖協議会、落石漁業協同組合、行政（市） 投入日：令和5年5月23日</p>	<p>昆布養殖試験の様子</p>  <p>養殖サーモンの放流の様子</p> 

	<p>(3) 漁協青年部による資源増大対策</p> <p>【取組内容】</p> <p>将来における資源管理の取り組みとして、漁協青年部によるウニの養殖を実施。赤潮により一時資源が減少したが、稚ウニを購入し、再度、つくり育てる漁業の振興を推進することにより沿岸漁業の活性化へ寄与することができ、資源についても徐々に回復してきている。</p> <p>【実施体制】</p> <p>主 体：落石漁業協同組合青年部</p>	
(3) 効果項目に対する評価 (Check)		
効果目標の達成度評価	・漁協青年部による養殖試験については、餌料改良や育成方法の検討など定期的に行った結果、ウニについては根室市内等へ出荷しており、新技術活用による水産資源増大対策も含め、本取組のより、「つくり育てる漁業」の推進に寄与できた。	
反省点	・天然資源依存型漁業からの転換については、年々、養殖等に力を入れ転換を図ってきているが、一部では事業化に至っていない。	
(4) 取組の改善措置 (Action)		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤナギダコについては、規模を拡大して稚ダコの生育状況及び着生状況を確認するとともに、稚ダコの放流数を増加させるなど改良を加えていく。 ・トラウトサーモンの養殖試験について、放流当初は稚魚の餌喰いも良く、順調に成長していたものの、本年の記録的猛暑により水温が例年より上昇したため、多くの稚魚が斃死してしまった結果を踏まえ、今後の進め方及び養殖魚種について再考していく。 ・漁協青年部によるウニ養殖については、今後も、飼料などの改良を行いながら品質向上を目指していく。 	
取組の実施に必要なもの	・増養殖に適した漁港づくり（静穏域の確保、陸上養殖施設の整備等）	

●将来の担い手確保対策に向けた取り組み（継続事業）

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくり育てる漁業の推進による地域漁業の足腰の強化 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学生へへの出前講座 ・落石ネイチャークルーズへの無料招待 	<p>取組場所</p> 
現状における取組実施の背景	<p>地域住民の高齢化により、将来の担い手不足が顕著となっている中で、当地区に住んでいる学生についても、漁業に対する興味・関心が従前に比べ、乏しくなっている状況であることから、この現状を打開するため、将来を担う地元学生への漁業体験や出前授業を実施し、水産業への興味・関心の向上を図ることで、将来の担い手確保に繋げる。</p>	<p>【取組の様子】</p> <p>漁協青年部による出前授業の様子（北斗小学校）</p> 
取組により期待する効果	<p>担い手確保、後継者育成</p>	
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>(1) 市内小学生へへの出前講座</p> <p>【取組内容】</p> <p>根室市漁協青年部連絡協議会と協力し、市内小学校において落石地区で漁獲された生きた水産物を持ち寄り、出前授業を開催した。</p> <p>【実施体制】</p> <p>主 体：根室市漁協青年部連絡協議会</p> <p>日 程：令和5年10月18日</p> <p>場 所：根室市立北斗小学校</p> <p>対 象：第3学年44名 及び 教員4名</p> <p>(2) 観光教育による後継者育成</p> <p>【取組内容】</p> <p>落石地区の地元中学生をネイチャークルーズへ無料招待し、将来の地域振興を担う子どもたちに、地域の魅力を伝えるなど観光教育を行い、意識高揚を行った。</p> <p>【実施体制】</p> <p>主 体：落石ネイチャークルーズ協議会（構成員：漁業者、漁協職員、市観光協会、行政（市）ほか）</p> <p>日 程：令和5年8月23日</p> <p>対 象：根室市立落石中学校 生徒19名 教員5名</p>	
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に生きた魚に触れる機会を創出することにより、若年層の漁業に対する関心の高まりが期待され、将来的な漁業の担い手確保を図った。 ・ネイチャークルーズの無料招待を通じた観光教育行った結果、以前に比べ、地元催事等の積極的な参加が増えたことから、将来を担う子どもたちに対し、効果的な意識高揚ができた。 	
反省点		
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点		
取組の実施に必要なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座等を実施するための人手確保 	

●災害に強い地域づくりの推進（継続事業）

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主・自律の生活・福祉・防災等の相互組織の形成 <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落石地区避難訓練 	<p>取組場所</p> 
現状における取組実施の背景	平成 19 年に実施した津波時の漁船沖出訓練を踏まえ、津波等の不測の事態に備え、地域の防災意識の向上を図るため、津波時を想定した防災教育並びに避難訓練を実施することで、災害に強い地域づくりの推進を図る。	<p>【取組の様子】</p> <p style="text-align: center;">避難訓練</p> 
取組により期待する効果	防災・避難情報システム等の整備、安全で住みやすい漁業地域づくり	
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>(1) 落石地区避難訓練</p> <p>【取組内容】</p> <p>地域全体が一体となり、地震・津波を想定した防災訓練を実施。</p> <p>防災行政無線を利用したサイレンを一齐吹聴し、避難場所まで何分かかかるかを計測し、避難経路の見直しや再確認を行った。</p> <p>【実施体制】</p> <p>主 体：落石漁業協同組合、落石地区住民、地区内企業、落石地区小中学校、行政（市）</p> <p>日 程：令和 5 年 3 月 2 5 日</p>	
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	地域全体が一体となって防災・減災に係る取組を継続的に行うことによって、自主防災組織の体制強化が図られ、防災意識の向上に結びついた。	
反省点	・ 実際の避難ルート及び避難施設上で訓練を行ったところ、日常的に避難施設を使うことが無いため、避難階段を登るには恐怖感があるなどの課題や風向きによってはサイレンが聞こえないなどの施設面についても課題が挙がった。	
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の不安を解消するため、年に数回の避難訓練のほか、避難施設利用に特化した訓練を行う。 ・ 地区内のどこにいても災害情報を聴くことができるよう、施設整備の推進を図る。 ・ 既存の漁港 BCP を改訂し、避難訓練や漁船沖だしの取り組みなどを総合的に網羅した災害発生時地域住民一体となって迅速な復興が行えるような組織作りを行う。 	
取組の実施に必要なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な避難訓練の実施 ・ 円滑な情報伝達に向けた施設整備 	